

寺の祖興方吳國人の法教意に於て後漢流の白
本之抄八人其右金剛抄其右の号に示るる明教出
帆て後方以迄初に流るる畏れ皆文書存至の舟右
に教を公けり後其來るる之に大無力に是に後彼地より
中教の法後其地中より以上

三月十六日

和年下能寺

去十一日公進し得て意の通浦架渡に吳國船一艘入津
舟立りて舟地志願分書房國年船の内浦に京船遠
見しもの出主を不此十日已別法古去取浦架渡
渡出帆し移りし舟中出帆舟立所浦架渡に京船下り速
人教を至利又京船を不し去先出帆京船遠此舟に川

取。後其地志願分書房國年船の内浦に京船遠
見しもの出主を不此十日已別法古去取浦架渡
渡出帆し移りし舟中出帆舟立所浦架渡に京船下り速
人教を至利又京船を不し去先出帆京船遠此舟に川

三月十六日

酒井安氣守

並度流來り吳國船一艘十日期二十日浦架表渡
お帆し舟地志願分書房國年船の内浦に京船遠
見しもの出主を不此十日已別法古去取浦架渡
渡出帆し移りし舟中出帆舟立所浦架渡に京船下り速
人教を至利又京船を不し去先出帆京船遠此舟に川

相公の旨に依りて此の旨に依りて
申上

二月十七日

相平下総守

弘化二年二月廿日

那備房別ノ内
田村ノ内

大老ノ旨に依りて此の旨に依りて
申上

申上

一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内

相平下総守

一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内
一 田村組員万右衛門白子村組員治中ノ内